

か 考える子  
が がんばる子  
や やさしい心の子  
け 元気な子

学校だより

第4号



令和4年7月  
愛川町立菅原小学校  
発行者 中村 慎輔  
電話 046-285-2794

## 教室はまちがうところだ

校長 中村 慎輔

子どもたちは、いろんな「できること」を持っています。サッカーが得意、ピアノが上手、書道が上手い、泳ぎが速い等々。しかし、それをしはじめたときには、最初からうまくやれたわけではないと思います。

自転車に乗らなければ転ぶことはないですが、それでは永久に乗れるようになりません。なにかをできるようになるためには、失敗をすることも大切です。何事かを成し遂げようとしているから、まちがいもあるのです。失敗した時こそ、かしくなるし成長していくのだと思います。

「教室はまちがうところだ」という詩があります。絵本にもなっています。

「失敗を恐れたり恥をかかないようにとっていると、身体や心が縮こまってしまうから、どんどん、失敗しよう。どんどん失敗して失敗から学ぶことで、苦しいことや嫌なことに立ち向かおう。苦しいことを乗り越えていく度に、人間として成長し、強くなっていけるんだ。」という内容の詩です。

「学ぶ」ということは、本来楽しいものです。知らなかったことを知り、できなかったことができるようになるのが学びです。

「友達と話したらわかった。」「前に学んだことを活かしてこの問題が解けた。」「練習を続けたらできるようになった。」学ぶことは幸せなことだと思います。

ところが、「まちがいをこわがる」気持ちがあると、学びの邪魔をします。

「人前で間違えたら恥ずかしいな。」「なるべく、間違えたくない。」子どもたちのその気持ちよく分かります。しかし、初めからなんでもわかっている、なんでもできる人はいません。授業で間違えるのは当たり前のことです。テストで間違えたことのない人なんていません。間違いの一つもない授業、間違えるのが怖くて誰も発表しない授業、スムーズに流れてもそれは本当の学びではないと思います。その教室の一人一人が本気で考えて、自分の考えを思い切って口に出すことが大切です。大事なのは、聞いている人が、誰かが間違えても笑ったり馬鹿にしたりしないことです。そしたら安心して、発言できます。安心して間違えられます。そして、どこか間違えているのか、みんなで考え、正しい答えを見つけていくことこそが本当の学びです。そうして得た力は、一人一人の本当の力になります。間違いを乗り越えてつかんだものは強いです。そんな学級を、そんな学校をみんなでつくりあげたいと思っています。

それは教科の学習以外の部分でもいえることだと思います。人と人がともに生活し、学びあう中では、問題やトラブルが起きるのは当たり前です。子どもですから、上手に解決できないこともあります。問題やトラブルはないに越したことはありませんが、もし起こってしまったときは、これらを学びの機会ととらえてほしいと思っています。

子ども同士でトラブルが起きたときに、当事者が互いに言い分を伝えて解決に向かうことで、人間関係調整能力を育成することができます。こうしたトラブルが経験となって、「ここまではしてもよいけど、これ以上はやってはいけない。」といった人とのつきあい方を理解し、体得することもできます。学校という場で学ぶことの大きな意義だと思っています。



# 「夏休みの安全な過ごし方について」

児童指導担当 中村 俊洋

子どもたちが楽しみにしている夏休みがやってきます。子どもたちだけで過ごす時間が増え、普段なかなかすることのない経験のできる期間となることでしょう。しかし、事前に起こりうることを考えさせ、正しく、安全に行動できるように指導・支援することは大人の役目です。ご家庭でも次のことに注意して、お子様にお声がけくださいますよう、お願いいたします。

- ・交通安全を心がけること。
- ・水の事故に気をつけること。
- ・火遊びは絶対にしないこと。
- ・花火は子どもだけでしてはいけないこと。
- ・インターネットやSNS等でのトラブルに注意すること。
- ・お金や物のやりとりについて家のルールを守ること。
- ・公園など公共の場では、マナーを守って過ごすこと。

以上の点については、学校でも指導しますので、ご家庭でもご指導をよろしくお願いします。



## 菅原小学校のめざす子どもの姿

### 1. 自ら考え、自ら行動できる子ども（自己肯定感の高い子ども）

～子どもの自己肯定感を高めるために～



上記の子どもの育成を育成するために、本校では子どもの自主性に主眼を置いた教育活動を展開していきたいと考えています。「自己肯定感」とは、「自分が自分であることに満足し、価値ある存在として自分自身を受け入れられること」です。自分の良いと感じるところも悪いと感じるところも含めて自分なんだと自分自身を認めてあげられるようになることです。

自己肯定感の高い子は、物事を前向きに解釈することができ、気持ちが安定し、失敗を必要以上に恐れることなく積極的に行動できるようになります。

反対に自己肯定感の低い子は、ちょっとした出来事でも心が揺れ動き、気分が沈みやすくなり、行動が消極的になります。また、自己肯定感が低いと、他者からの承認欲求が強くなり、行動が依存的になります。依存的になると、何か困ったことがあったときに他人のせいにするようになってしまいます。

自己肯定感を高めるには、自分自身で考え、判断することが大切です。大人がすぐに指示をしたり、大人が判断をしたりするのではなく、子ども自身が考えて、判断する場面を作ってあげることが大切です。もちろん子どものやることです。うまくいかないこともあるかもしれませんが、そのために、「安心して失敗できる環境づくり」を整えてあげることと、「成果以上にプロセスを重視」した声かけを心がけていきたいと考えています。

## 今後の予定

7/20 (水) 1学期終業式

9/1 (木) 2学期始業式

7/21 (水) 夏季休業日

9/2 (金) 登校班会議

～ (8/13～16 閉庁日)

9/13 (火) 6年修学旅行 (1日目)

8/31 (水)

9/14 (水) 6年修学旅行 (2日目)

【かがやけブログ】



こちらをご覧ください。